

## 大学院教育に関するアンケート設問

### 属性

Q1	性別:	【男, 女】
Q2	年齢(2005.4.1現在):	【30歳未満, 30-35歳, 36-40歳, 41-45歳, 46-50歳, 51歳以上】
Q3	最終学歴:	【博士課程(国内大学), 修士課程(国内大学), 学部, 海外大学院, その他】
Q4	最終専攻分野:	【機械系, 電気・電子系, 化学工学系, 金属・材料系, 応用物理系, その他】
Q5	所属企業の業種:	【電機・電気・情報機器, 自動車・機械, 半導体/電気・電子部品, ITサービス関連, 社会インフラ関係(電力, ガス, 水道など), その他製造業, 非製造業】
Q6	所属企業の規模:	【100人未満, 100-999人, 1000-9999人, 10000人以上】
Q7	現在の職種:	【研究・開発, 設計, 製造, 営業, 企画・スタッフ, その他】

### 大学院教育の現状に対する評価

#### 36歳以上の方への設問(第三者的な視点で回答)

Q8a	入社時点で大学院修了者は学部卒業者に比べ、企業のエンジニア、研究者として優れた資質を持っている。
Q9a	入社時点で大学院修了者の専門性は非常に高い。
Q10a	入社時点で大学院修了者の基礎学力(数学、物理、化学など)、工学基礎学力(力学、制御など)は学部卒業者に比べ高い。
Q11a	入社時点で大学院修了者はプレゼンテーション能力、コミュニケーション能力に優れている。
Q12a	入社時点で大学院修了者の英語力は学部卒業者より高い。
Q13a	入社時点で大学院修了者は幅広い専門性を有している。
Q14a	入社時点で大学院修了者は提案力、行動力にも優れている。
Q15a	大学院の指導教官は、人材育成という点でも努力している。
Q16a	エンジニア、研究者として成長する上で多くの人が大学院の指導教官から強い影響を受けている。

#### 35歳以下の方への設問(自身の体験として回答)

Q8b	自分にとって大学院教育は有益であった。
Q9b	大学院で身に付けた自分の専門性は職場で即戦力となれるレベルであった。
Q10b	大学院修了時における自分の基礎科目(数学、物理、化学など)、工学基礎科目(力学、制御など)のレベルは業務遂行に必要なレベルを満たしていた。
Q11b	大学院修了時で自分にはプレゼンテーション能力、コミュニケーション能力が十分備わっていた。
Q12b	大学院修了時点で自分の英語力は仕事に役立つレベルであった。
Q13b	大学院では自分の研究テーマ以外の専門分野についても勉強した。
Q14b	大学院教育を通じ、提案力、行動力が身に付いた。
Q15b	大学院の指導教官には人材育成という点でも努力されていた。
Q16b	エンジニア、研究者として自分が成長していく上で、大学院時代の指導教官から強い影響を受けた。

### 大学院教育の改善施策

Q17	大学院教育では論文研究の比重を減らして必須講義の比重を増やすべきである。
Q18	大学院教育ではもっと専門性を高める指導が必要がある。
Q19	大学院教育では関連領域を含めた幅広い知識や視野を得られるようにカリキュラムを見直す必要がある。
Q20	大学院教育における工学基礎科目、演習を強化すべきである。
Q21	技術者倫理、法規制についても大学院で教えるべきである。
Q22	MOT(技術経営)などの経営的側面についても大学院で教えるべきである。
Q23	企業などの実践的環境下における長期のインターンシップ制度は大学院教育として有益である。
Q24	大学院教員の教育能力に対するファカルティ・ディベロップメント(FD)、評価制度の導入が必要である。
Q25	大学院修了者の質を保証するために、グローバルな視点に立った成績判定に関する評価基準の統一および標準化が必要である。
Q26	第三者評価の導入は大学院教育の改善に有効である。
Q27	企業において業務を遂行するにあたり重要と思われる能力・資質は何ですか。重要と思われるものを選んでください(複数選択可)。 【熱意・意欲, 行動力・実行力, 論理的思考能力, 表現力・プレゼン能力, 創造力, 問題解決能力, 専門知識, 語学力, 統率力, 協調性, その他( )】

自由記述欄:(大学院教育について、現状の問題点、今後の改善に向けての提案等、自由にご記入ください。)

Q8～Q26の選択肢: 強く思う, やや思う, あまり思わない, 全く思わない, よく分からない